

ひとりだち

きこえとことばの
支援センターだより
R8年1月号



さむ きせつ ちゅうじえん ちゅうい 寒い季節、中耳炎に注意！

一年で一番寒い時期を迎えてます。寒さによって血液循環が悪くなる冬は、耳の感染症が増え
る時期です。今月号は、その一つである中耳炎についてお伝えします。

中耳炎はウイルス・細菌が耳管（鼻と中耳をつなぐ管）を通って中耳で
感染・炎症を起こすものです。強い耳の痛みが特徴的な症状です。「きこえ
づらくなる」「熱が出る」「耳だれが出る」などの症状も見られます。

なぜ、中耳炎になるのかというと、原因は鼻水です。鼻水にはウイルス・
細菌が住み着いており、鼻から中耳にウイルス・細菌が入ります。特に風邪
が進んで、鼻水が黄色になると要注意です。なぜ、子供は中耳炎になりやす
く、繰り返すのかというと、子供の耳管は大人の耳管に比べ、短く、太く、水平になっているため、鼻水
が入りやすく炎症を起こしやすいからです。中耳炎は自然治癒しにくく、治療が遅れると鼓膜などへ
のダメージできこえの状態が悪くなることもあります。

中耳炎の種類には、急性中耳炎、滲出性中耳炎、慢性中耳炎などがあります。急性中耳炎が
長引くと滲出性中耳炎になり、呼び掛けに反応しにくくなったり、聞き返しが多くな
たりします。また、テレビの音量を普段より大きくするということも見られます。滲出性中耳炎は痛みや
発熱がないため、注意が必要です。中耳炎かな?と思ったら、すぐに医療機関を受診しましょう。ま
た、症状が軽くなったからといって治療を中断すると、中耳炎を繰り返す原因にもなります。「完治し
た」と医師から判断されるまでは治療を続ける必要があります。

では、中耳炎にならないように未然に防ぐにはどうしたらよいでしょう。そ
れはこまめに鼻をかむことです。自分で鼻をかむことができない乳幼児は、
鼻水をこまめに吸い取ったり、拭き取ったりします。自分で鼻がかめるよう
になったら、片方ずつ鼻を押さえてかむようにしましょう。鼻水をすすったり



せず、鼻をかむことによって、ウイルス・細菌をこまめに
体外へと排出し、鼻の中ができるだけ清潔な状態に
保つことが中耳炎の予防につながります。また、アレルギーによる鼻炎から
中耳炎になることもあるため、ホコリなどの環境アレルゲンを除去することも
有効です。普段から栄養バランスのとれた食事、質の良い睡眠を心掛け、体調
を整え、風邪をひかないように努めていきましょう。



冬の補聴器・人工内耳の管理

補聴機器も寒い冬の影響を受けるため、冬ならではの補聴器・人工内耳の管理が必要になります。この機会にご家庭でも補聴器・人工内耳の管理について話題にしていただけたらと思います。

結露に注意！

室内と室外の気温差により
結露を生じやすいです。

熱に注意！

補聴機器は熱に弱いで
す。

電池に注意！

冬の乾燥と低温は、電池の
性能を低下させ、寿命を
短くします。

外した後は、電池を取り出
してドライケースなどに入
れましょう。イヤモールド
やフック、チューブの水滴
は、こよりでとることができます。



暖房の側など、高温にな
る場所には置かないよう
にしましょう。



予備の電池を持ち歩きましょ
う。こまめに電池の残量を
チェックすることも大切で
す。電池が冷えている場合
は手でしばらく温めてから
使いましょう。

静電気によって、まれに人工内耳のマップが壊れることも
あります。静電気にも注意しましょう。



* ナショナル補聴器センター … 2月4日・18日(毎月第1・3水曜日)

* 理研産業 … 2月25日(毎月第2水曜日)※今月のみ第4水曜日となります。

場所: 本館1階 補聴相談室 時間: 13時30分~相談が終わり次第終了

※イヤモールド作成、補聴器の不具合等の相談は、業者来校日の前に、担任を通じて各部の補聴
相談係への連絡後、申し込み用紙の提出をお願いします。